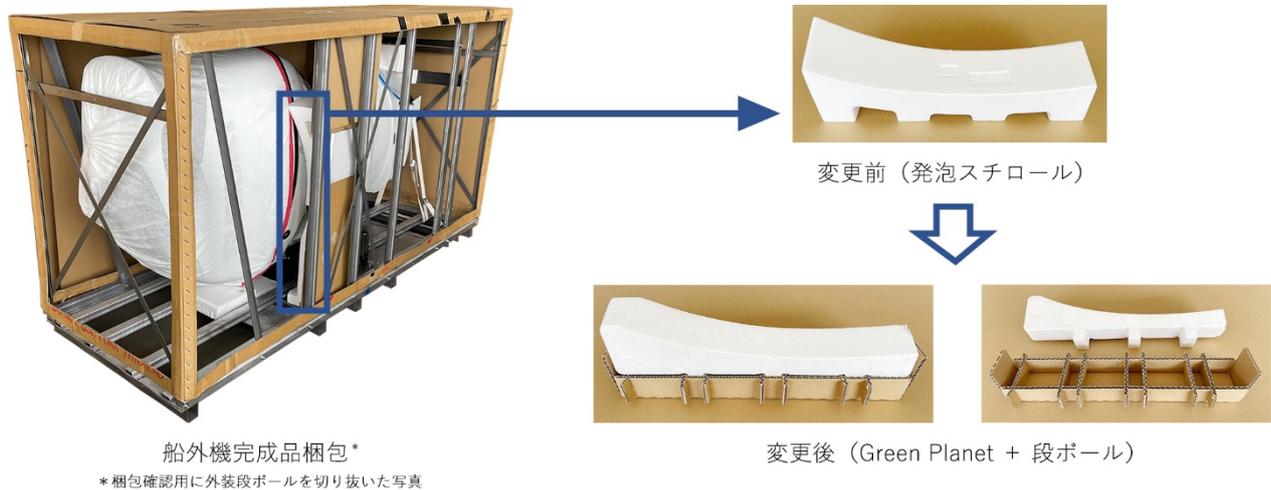


スズキ、船外機の完成品梱包において石油由来プラスチックを削減 - 生分解性素材「Green Planet®」と段ボールを組み合わせて課題解決 -



スズキ株式会社は、石油由来プラスチックを削減するため、船外機の完成品梱包の緩衝材に使用する発泡スチロールの代替材として「Green Planet®」（以下、Green Planet）を採用しました。Green Planet は株式会社カネカが開発した 100% バイオマス由来の海洋でも容易に分解される生分解性ポリマーです。

発泡スチロールの代替材への切り替えにおいては、梱包輸送中における従来の発泡スチロールと同等の緩衝性能が必要でした。そこでスズキは Green Planet の緩衝性能を補うため、段ボールの組仕切り形状の 2 層構造を開発し、従来の発泡スチロールと同等の緩衝性能を確保しました。

スズキは、海洋プラスチックゴミの環境問題に取り組むため、2020 年に「スズキクリーンオーシャンプロジェクト」を立ち上げ、梱包資材のプラスチック削減を進めてきました。

その結果、日本で生産される船外機完成品梱包における石油由来のプラスチック使用量は、2020 年度で年間 43 トンでしたが、2023 年度は年間 6.3 トンまで削減しました。2026 年度までに使用量をゼロにすることを目指しています。

また、船外機の梱包緩衝材を手始めに、全製品の梱包資材の転換を図ります。

これからもスズキは、環境負荷の軽減を図り、環境に配慮した取り組みや SDGs（Sustainable Development Goals）の達成に向けた取り組みを続けてまいります。

以上